

び「名前を付けて保存－Ver. 3形式 (\*.rm2)」が表示されます。

なお、Ver.3のアプリケーションをVer.3.7.18以降にアップデートすれば、Ver.4形式データも読み込めますので、Ver.3形式で保存する必要はほとんどありません。

#### 4-2-2 編集

データの種類によっては操作ができないものもあります。

「取り消し」：編集作業で、誤って操作したり削除したときなどに、前の状態に戻します。拡大率の取り消しは基本ツールバーのボタンで行います。

「F2 位相補正 (Phase)」：FT変換時に補正したものをF2方向に再補正します。

「F1 位相補正 (Phase)」：FT変換時に補正したものをF1方向に再補正します。

「2D Reference設定」：2DスペクトルのReferenceの設定を行います。

「1D Reference設定 (F2/F1)」：F2またはF1の1DデータのReferenceの設定を行います。

「F2方向BaseLine補正・F1方向BaseLine補正」：FT時のベー

スラインのうねり等を補正します。ただし、この補正を行った後には、正確な位相補正は行えません。

「1Dスペクトルの編集」：1Dデータ編集用の別ウインドウを開き、そこで当該スペクトルの編集(Referenceの設定、位相補正、ベースライン補正)を行います。

「対称処理」：同核種2Dスペクトルで対角線に対して対称処理を行います。

「Peak線引き」：スペクトルのピークから1Dスペクトルに対して線引きを行います。自動でもできますが、不要なものが多くなりますので手動で設定することを勧めます。

このデータは、4-3-12「ピークリストの印刷」によって印刷できます。

「拡大図の挿入」：拡大図を作成・挿入します。10個まで作成可能です。

「拡大図の表示」：挿入された拡大図を表示または非表示にします。

「スペクトルの反転」：F1方向またはF2方向のスペクトルとケミカルシフトとの対応を反転します。

「F1とF2のデータの入れ替え」：F1とF2の座標を入れ替えます。

「パラメータの修正」：測定時のパラメータのうち解析に影響のないものの修正を行います。

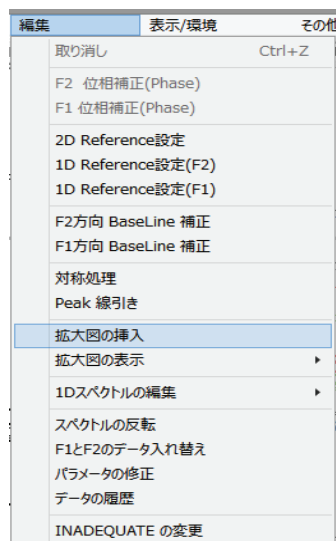


図4-8 編集メニュー